

千葉 あいご

Vol.
83

Index

- 1|2|3 令和4年度障害者支援施設部会施設長研修会
- 4|5 わが施設の自慢・アピールポイント④
- 5 新事業所紹介
- 6 千葉知協トピックス
- 6 事務局だより・編集後記

第83号 (2023年3月号) 発行日：2023年3月20日／発行者：里見吉英／編集者：畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

[本部] 千葉市中央区中央3-15-6 山長(ヤマチョウ)ビル4F TEL 043-224-5721 HP <https://caid-net.com/>

[事務局] 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

令和4年度障害者支援施設部会施設長研修会

令和4年11月28日に千葉県教育会館にて障害者支援施設部会施設長研修会が開催され59名が参加いたしました。今回の研修では強度行動障害のある方の居住支援について、先進的に取り組んでいる3施設の実践報告が行われました。

実践報告

① ふる里学舎蔵波

施設長 松橋達也氏

ふる里学舎蔵波の心静寮は強度行動障害の方の受け入れ先として令和3年8月に新規に建設。二階建てで居室数が15室あり1階が9室で強度行動障害の方、2階が6室で触法の方が利用しております。強度行動障害の方々は自傷・他害・器物破損・不潔行為・異食・激しいこだわり等がある方々で、袖ヶ浦福祉センター更生園を利用していた方や暮らしの場支援会議対象者を受け入れていきます。強度行動障害の方々と触法の方々が一緒に暮らすことをチャレンジしており、現在のところ触法の方々が掃除や食事の準備など職員の手伝いを積極的に行ってくれたり、他利用者にも何かあった場合に職員に知らせてくれたりするなど、寮内の環境について、当初は自室で過ごしていただくことを考えており、デイルームの設置はしておりませんが、利用者の方々は人が好きな方が



心静寮 外観

多く、食堂に集まって過ごしている時間が多くみられております。建物の壁や床の構造は破壊防止や清潔維持の対応を図り、テーブルや椅子については倒したり持ち上げたりできないように固定しており、窓ガラスはすべて強化ガラスとなっております。夜の安全確保のため居室にも安心カメラを設置、便で衣類を汚してしまう方への対応として汚物処理機を導入し職員の負担軽減を図り、ゆとりを持って利用者向き合う時間を確保しています。支援体制について開所時は法人の幹部・チーフクラスの職員のみ配置にて対応していましたが、現在は利用者も落ち着いてきており、若手の職員も食事や入浴などの場面での支援を行い徐々に慣れてきており、夜勤についても従事できるようにしております。起床から朝食時間までの間に問題行動が多くみられていたため当初は職員2名の対応でしたが、4名の体制とすることで利用者への支援も余裕をもって対応することができ、夜勤職員の負担軽減にもつながりました。

Aさんの支援について、この方は便弄りのある方で白い壁に便を付けてしまう行為が長年続いていたのですが、壁に絵や柄のある場所には便をつけないのではなかつたかと仮説を立てて実際にウォールシートを張ったところ、その場所に便をつけることはなくなりました。Bさんの支援については、長年入院されてい



研修会場

多く、食堂に集まって過ごしている時間が多くみられております。建物の壁や床の構造は破壊防止や清潔維持の対応を図り、テーブルや椅子については倒したり持ち上げたりできないように固定しており、窓ガラスはすべて強化ガラスとなっております。夜の安全確保のため居室にも安心カメラを設置、便で衣類を汚してしまう方への対応として汚物処理機を導入し職員の負担軽減を図り、ゆとりを持って利用者向き合う時間を確保しています。支援体制について開所時は法人の幹部・チーフクラスの職員のみ配置にて対応していましたが、現在は利用者も落ち着いてきており、若手の職員も食事や入浴などの場面での支援を行い徐々に慣れてきており、夜勤についても従事できるようにしております。起床から朝食時間までの間に問題行動が多くみられていたため当初は職員2名の対応でしたが、4名の体制とすることで利用者への支援も余裕をもって対応することができ、夜勤職員の負担軽減にもつながりました。

た方で情緒の波が激しく、器物破損（テレビや窓）や出血するほど激しく額を打ち付ける自傷行為がみられる方で、物の要求（テレビ、DVD、ヘッドフォン等）が多いが自ら破壊を繰り返している状況であり、要求に対していろいろな職員がいろいろと言うことで混乱してしまうため、職員でキーパーソンを決めての対応で現在は納得することができています。

Cさんの支援について、千葉県暮らしの場支援会議対象者で情緒の波が激しく、不安定時には他害、器物破損、離設を繰り返しています。先日、数センチしか開かない窓から血だらけになり離設して近所で保護されたこともあり入院されていた方なので今後も施設と医療機関との信頼関係を築き、連携し対応してまいります。

強度行動障害のある方の受け入れは、社会福祉法人としての責務として、これまでのノウハウを活かしていくことが必要であると思います。また支援にあたる職員のモチベーション、プライドの維持、職員を疲弊させない体制づくりをしっかりと考えていくことが大切であります。さらに医療機関との連携と保護者や関係機関との信頼関係も重要であります。

強度行動障害のある方の支援では職員がゆとりをもって向き合うことが重要であり「楽しく強行」「たのしくきょうもいこう」と思える環境設定をして、これからも支援していきたいと思えます。

② 大久保学園

生活支援リーダー

原 舞子氏
加賀美裕氏

大久保学園は入所80名（男性60名、女性20名）で40代の方が多く、障害支援区分は区分5と区分6の方がほとんどであります。施設は52年目を迎えており、利用者の高齢化や重度化が進んでいます。そのため作業中心の日課から入

浴や余暇など生活面に重点を置き、利用者の障害特性に配慮した日課の移行に取り組みしております。今回2名の強度行動障害の方を受け入れており、49歳の女性Mさんは袖ヶ浦福祉センター更生園を16年利用していた方で、事前の情報では自傷行為があり自分の顔を叩いたり、壁に頭を打ち付けるなど、また自閉症で予定が変更になると不安定になったり、集団で過ごすことが難しい方であるとのことでした。受け入れられる半年前に自傷行為により両目が見えなくなっており、それについての対応も検討する必要がありました。受け入れにあたり、住環境の配慮が必要であったため職員の寮として使用していた建物を改修し、2DKの部屋を刺激の少ない環境に整え、情報過多を避け、食事・入浴・トイレなど生活の一連の流れを自室でできるように設定しました。日課の作成では引継ぎを受け、常時2名の支援体制を整え、日中活動については生活のリズムを整えるため自立課題の導入を行いました。現在の生活について袖ヶ浦福祉センターではコロナの影響を受けて袖ヶ浦福祉センターではコロナの影響を受けて帰省が出来なかったこともあり、入浴があまり行えなかったようでしたが、今は自室で入浴が可能になったことで外部の影響を受けず、毎日入浴できるようになっております。日中活動については、環境の変化が苦手なことから初めは職員に手を出してしまいうこともありますが、動機付けと支援の統一を行ったことで、作業中の他害行為は見られておりません。現在は自室の作業部屋から作業棟に移動して活動することができています。また午前中は入浴、午後は作業との日課で次の見通しを立てることで情緒の安定が図れております。今後の課



Mさんの自立課題

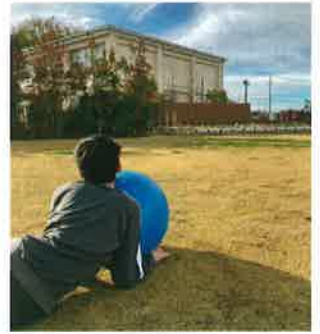
活動することができています。また午前中は入浴、午後は作業との日課で次の見通しを立てることで情緒の安定が図れております。今後の課

題と目標については、受け入れ当時はソファに座っていることも難しいほど筋力の低下がみられていたため、今後、歩行訓練などを取り入れて体力の保持、身体機能の低下を防いでいきます。生活の質の向上については、好きなものを買に行ったり、旅行に行ったりと本人にとって心地よい刺激を生活の中に取り入れていきたいと思えます。強度行動障害の方を受け入れるにあたり、とても構えてしまい不安もありましたが、環境を整えることで想像している以上に柔軟に対応することができたと思えます。Mさんが入所して約1年が経ち今後も様々な課題が出てくると思いますが、本人の特性に合った環境を大切に支援していきたいと思えます。20歳の男性Sさんは袖ヶ浦福祉センター養育園を9年利用していた方で、令和4年の2月に入所の受け入れをしております。事前の引継ぎでは感情の起伏が激しく急に不安定になることや自分の手を噛む自傷行為、物を壊す、他人の髪を引っ張るなどの行為がみられるとのことでした。受け入れのための事前準備として、住環境の確保として、Mさんと同じ建物で2DKの部屋を利用していただき、情報過多を避けるように自室にて生活できる環境としております。本人の特性を考慮して、不快にならないよう、また安全に配慮したつくりとなっております。テレビやエアコンには本人が触れられないようアクリル板等を設置しており、部



安心カメラを設置した部屋と特性に配慮した環境例

部屋を利用していただき、情報過多を避けるように自室にて生活できる環境としております。本人の特性を考慮して、不快にならないよう、また安全に配慮したつくりとなっております。テレビやエアコンには本人が触れられないようアクリル板等を設置しており、部



庭で過ごすSさん

屋にはカメラを設置し夜間職員が離れているときなどモニターにて安全確認ができるようになっております。日課の作成について支援員2名を配置しており、日常生活支援を中心に支援しています。日中活動では外に出たいとの希望や車を見ると寄っていき乗り込もうとする行動がみられています。散歩やドライブ等個別対応をしております。その他にボール遊びや音楽に合わせて体を動かすなど、様々な活動を通じて新たな可能性を探っていきたいと考えております。大久保学園で生活を始めて、物を激しく壊す行為は住環境の工夫によりほとんど見られず、部屋では刺激が少なくなつたことで突然情緒不安定になることもなく落ちついて過ごされております。職員とのかわりでは、職員へのジェスチャーや腕を引く張る行動から外に出たいなどの意思をくみ取ること、笑顔をみせて喜んでくれる姿も見られております。保護者とのかわりも増え、月に1度、一緒に食事やドライブを実施しております。課題と今後の目標について、健康管理として摂食の課題があります。手づかみで食べてしまふ、座位がうまく保てないなど摂食のリスクが高くなくなったことで、歯科通院にて摂食指導を受けており、実際の食事の場面を見てもらつてカメラで食事の様子を映してもらつくと、嚥下した後には食べ物残渣にやりやすさがわかり、食事の時にこまめに水分をとることが必要であることがわかりました。20歳という若さで、これから長い人生であり今の環境にとどまらず、本人の希望を叶えて課題を解消して日常を過ごすためにどうすればよいかを追求して支援にあ

たつていきたいです。今後も様々なことにチャレンジしていきたい彼の暮らしがより豊かになるよう支援していきたいと思ひます。

③上総喜望の郷

施設長 中村敏久氏

袖ヶ浦福祉センター利用者移行支援事業を活用して法人で初めてのグループホームを建設し「共同生活援助おとなりさん」として令和4年7月から事業を開始しました。定員は5名で、すべて区分6の方で重度強度行動障害の方が1名、強度行動障害の方が3名、行動障害の方が1名を受け入れしております。利用者の受け入れにあたって、事前情報を確認すると数々のエピソードがあり、すごいという印象を受けてしまひますが、必要以上に身構えてしまふことなく、既存の施設で強度行動障害の方々を受け入れて支援してきたことで学んできた経験を活かして受け入れをしております。建物は普通の暮らしを目指しており、一般家庭と同様で特別なものはなく普通にあるものを使つております。行動障害があるから、こうでなければならぬというのではなく、普通の人として出逢ひを丁寧にするので、住み慣れた場所から初めての場所に移つてきて緊張やなかなか慣れないこともあるため、なるべく余計なことはせず関係性を築いていきました。受け入れ後、どのように過ごしていたのか考えた中で本人が望む寄り添ひをしていくことを重点に、本人が望まひいことを支援者が望むと反発が生じ、本人の特性を考慮せず普通はこうなのだからこうして下さいというような対応では余計に反発が生じてしまひ問題行動となることがあります。以前は支援者が余計な刺激を与える寄り添ひを繰り返してきたため、本人に負担となり反発があつたので、本人が望む居心地のよさそうな環境をつくり穏やかに暮らしていただくように努めてお



おとなりさん 外観

ります。施設やグループホームにはカメラは設置しておらず、鍵も一般の家庭のもので自由に入入りできますので、利用者が近所の家におじやましてしまふこともあり、その都度、謝罪や散らかしたものの片付けを30年行つてきました。地域の方々にも施設への理解もただけてきております。ホームは7月から開所して利用者が無断で出かけてしまふことは今のところありません。強度行動障害の方々の受け入れの仕方によつては本人の行動が変わつていきます。問題となる行動をなくそうとするのではなく、支援者が変わるといふことが大きいと思ひます。まず、一歩踏み出して、一人でも受け入れていくことが我々施設の大切な役割であると思ひます。

今まで強度行動障害の方々を受け入れていた袖ヶ浦福祉センターの事業終了に伴ひ、その役割を私たち民間事業所が担つていかなければなりません。今回、3施設の実践報告を聞くことで、強度行動障害の方々の受け入れや支援のために必要となる情報を得る機会となりました。また、今後は県の「暮らしの場支援会議」の取組みと連携して、受け入れる体制づくりの整備を進めていくことが必要であると思ひます。特に入所施設について役割や必要性をしっかりと打ち出していくことも重要であると感じました。

千葉県知的障害者福祉協会 広報委員会

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント④

平成20年度から40回にわたり101の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は3つの“プチ自慢”です!

市原・安房・君津ブロック…社会福祉法人いずみ会…袖ヶ浦学園

～一人ひとりに寄り添い、自立した生活に向けて～



ステップ班の作品とGメン班のシャインマスク



袖ヶ浦学園 外観

『袖ヶ浦学園』は平成11年11月に開所し23年経ち、開所した当時の職員が4名在籍しており利用者様と共に約四半世紀過ごしてきました。日中活動は、「Gメン班」「チャレンジ班」「ステップ班」「ほほえみ班」「にっこり班」に分かれて活動しています。活動の目標は一人ひとりに合った活動内容を模索し共に成長することです。15年ほど前から自立課題の作成に力を入れ4年前に重度の利用者様1名を法人内のグループホームに送り出すことができました。距離にして約5.4km(車で10分)と近いのですが多くの職員が携わり実現することができました。

活動以外では、「音楽療法」と「作業療法」の先生が定期的に来園されセッションを行っています。こちらは10

年程前から行っており、セッションを楽しみにしている利用者様もられます。音楽療法では、好きな曲をピアノで演奏してもらい発声練習の一環で歌ったりしています。作業療法では、重度の利用者様がピアノを弾いたりボールを投げたりすることで普段あまり使わない筋肉を使えるように促したりしています。

活動や生活を通して、一つ一つのことを大切にしていって共に同じ時間を過ごし利用者様と職員が互いに成長できる事業所を目指し日々過ごしています。

小さな事業所ですが、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

管理者 平島 吉隆

印旛・山武ブロック…社会福祉法人清郷会…十倉厚生園

～地域に種をまく～

十倉厚生園は社会福祉法人清郷会の4番目の施設として、平成11年度に開所した障害者支援施設です。富里市の南部に位置し、農業が盛んで自然豊かな環境の中、利用者の皆さんののびのびと日々の活動や生活を営んでいます。

私達職員は開所以来、地域とのつながりを大切にしてきました。土地柄農家さんが多く、今ではスイカを始め大根や人参、トウモロコシ等季節の野菜を園に持って来てくれる農家さんが増えました。園だけでは消費切れず、法人内の施設や時には近隣の施設にもおすそ分けをすることも。長年交流と繋がりを大切に続けてきた賜物だと自負しております。

また、地元の小学校との交流も、開所以来通年を通して重ねてきました。始まりはサツマイモ掘りでしたが、徐々に内容も増えサツマイモは苗植から、他に運動会・作業体験・招待行事等年に7～8回位の交流をしており、利用者の皆さんも子供たちとの交流を楽しみに、お互いに行き来をしています。小学生の頃から障害を持つ方たちと触れ合う事は「知る」



地元の小学校での運動会



十倉厚生園 外観

きっかけという種となり、それが活かされ将来良き理解者という花になって頂けることを願いつつ、これからも交流していければと思います。その一つの種が育ち、卒業生が当施設の職員になって支援に務めてくれている事は、一番の自慢と言えるでしょう。

まだまだ自慢出来る事はありますが、興味のお持ちの方は、是非ホームページを覗いてみて下さい。

支援主任 諸澤 尚美

夷隅・長生ブロック…NPO法人みらい工房…ぱれっと

～みんなの“楽しい”を目指して～



利用者も職員も楽しく



ぱれっと 外観

NPO法人みらい工房ぱれっとは、平成31年4月に茂原市に開所した定員20名の生活介護事業所になります。

当事業所の日中活動は“仕事”として位置付けず、“趣味”や“サークル活動”のように、自ら興味があることを選択して取り組むことを基本としています。その為、昨日はランニングマシンで体力作り、今日は卓球の腕磨き、明日は畑で種蒔きなど、毎日違う活動に取り組んでいる方もいらっしゃいます。このような様々な活動種の中で制作した絵やビーズ等の作品は、事業所内を彩る装飾として活用し、収穫した野菜は昼食の食材としてみんなで食べるなど、もの作りに関わった利用者だけではなく、他の利用者や職員も一緒にその喜びを共感できるようにしています。

このような活動スタイルについては徐々に認識して頂けるようになり、学校の先生や相談員から「ぱれっとの雰囲気

気に合うかも」とご紹介頂けることも増えてきており、大変嬉しく思っております。

そんな当事業所では「明日が楽しみになる今日を、みんなと一緒に。」というスローガンを掲げ、日々の支援にあたっています。次の日の通所や仕事（職員）がワクワクして待ち遠しくなる今日を作ることを目標とし、その為には“利用者が楽しめること”だけを考えるのではなく、“職員も楽しいと思うこと”を積極的に活動内容に取り入れ、全ての人が毎日を楽しむことができるよう努めているところです。

今後もみんなの笑顔が溢れる事業所作りを目指し、“楽しい”を追及していきたいと思っております。

支援課長 荒田 真充



誕生日にはクレープワゴンでお祝いも



季節外れのビアガーデン開催



オハナ館 外観

新事業所紹介

社会福祉法人 クローバー会

日中サービス支援型共同生活援助

第2クローバー学園 オハナ館

～住環境の向上と地域と触れ合う場づくり～

令和3年4月 市原市馬立に、定員20名短期入所2名で創設。

きっかけは、居住環境の向上への取り組みです。入所施設で個室に変更することが難しいと考え、女性の重度高齢の方20名をグループホームに移行。男性利用者が30名から10名増員し、施設入所支援50名定員を40名に減員したことで、施設の男性利用者も入所棟を二つに分けられたことで、落ち着いた生活環境となり、良い面を引き出すメリットがありました。

グループホームなので、地域の中で生活するため、駅、病院、スーパー、郵便局、学校が近く生活感もあり、お買い物やお散歩に最適な場所に位置し、車いすでもゆとり介助しやすく、全体的に直線で生活しやすさが好評です。食事の手作りで、規格外の野菜や余った野菜などを戴きSDGsにも貢献。広い地域交流スペースを、講習会や趣味の教室等に無料で開放し、常に人に囲まれているホームとなっています。この繋がりに利用者さんは、デザート作り、バリー、アロマタッチ、習字教室やフラダンス、ヨガ教室等色々な体験ができ、地域の方と触れ合う楽しい場となっています。

施設長 伊東朝美

千葉知協 トピックス

スポーツ文化委員会 藤崎 明

第26回千葉ゆづあいピック駅伝大会 報告



ハーフの部スタート～県総合 SC で

令和5年1月22日(日)、第26回千葉ゆづあいピック駅伝(千葉県知的障害者陸上競技協会等主催、本協会等後援)が千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で開催されました。大会は新型コロナウイルス等の感染症に対して、厳重な感染防止対策を取りながら実施されました。参加は41チーム、競技者数はロードレースの部男女35名を含め、計185名の参加がありました。

本大会のメイン種目ハーフ男子(6区間19.61km)では白熱したレースが展開されました。

1区(4.97km)では、ひかりACの安西伸浩選手が2018アジアパラジャカルタ大会陸上15000m日本代表の貫録を見せて区間賞を獲得しました。続く2区(1.47km)、市川大野チームの渡邊拓海選手が区間賞を獲得してチームを1位に押し上げました。3区(2.80km)では市川大野チームは区間2位で、ひかりのむらチーム中田尚平選手に区間賞は奪われたものの通算1位は譲らず。4区(2.80km)中川原守勝選手、5区(2.80km)牟田圭吾選手が連続区間賞を獲得して1位を死守しました。5区終了時点で2位のひかりのむらとは2分27秒差で、アンカー6区(4.77km)次第では逆転もあり得る状況でした。しかし、6区はチーム通算3位を走る安房職業コースの渡邊大樹選手が区間賞を獲得しました。ひかりのむらは斎藤正彦選手が首位を2分以上も詰めて肉薄しましたが、市川大野が辛くも逃げ切つて優勝し、ひかりのむらは準優勝、3位は安房職業コースでした。その他の

部門の主な成績は次の通りです。
クォーター(5区間9.88km)

男子Ⅱ優勝・ダイバーシティ、準優勝・ふる里学舎、第3位・流山高等学校A。
同女子Ⅱ優勝・安房職業コース。
Eイス(3区間4.88km)

男子Ⅱ優勝・ふる里学舎A、準優勝・ふる里学舎E、第3位・ふる里学舎B。
同女子Ⅱ優勝・富里福葉苑、準優勝・不二学園。

同壮年男子Ⅱ優勝・富里福葉苑A、準優勝・富里福葉苑B、3位・とまりぎJC。
同壮年女子Ⅱ優勝・ひかりAC(ひかり学園)。

成績の詳細は千葉県知的障害者陸上競技協会のHPに掲載される予定です。
<https://www.makinomikai.or.jp>

第31回 さわやか芸能発表会 報告



最優秀賞 千葉光の村授産園～舞台発表

令和4年12月6日(火)、千葉県文化会館(千葉市中央区)にてさわやか芸能発表会を開催しました。昨年の展示部門は新型コロナウイルスの感染対策のため実施できせんでしたが今年度は緩和され、実施することが出来ました。とはいえ、舞台発表は5団体、展示部門も同じく5団体と全盛時から見ればまだまだ少ないエントリーとなりました。

舞台発表では、残念ながら1団体が出演辞退となりましたが、発表した団体はどれも熱演で、充実したものとなりました。審査では甲乙つけがたいレベルの高い発表だったことから審査も激論となったと漏れ聞くほどでした。まれにみる激戦を制し、最優秀賞に輝いたのは千葉光の村授産園の「御成太鼓 祭囃子」でした。優秀賞はひかり学園のダンス「初心LOVE」、富里福葉苑の同じくダンス「ヤングマン」、

さ



吉井小也香さんによるパフォーマンス

そしてひかり学園アネットワークの演劇「ゴーストバスターズ」でした。

展示部門5団体も、これまでハイレベルな作品が並び、審査員の皆様の評価は高得点ばかりだったそうです。ある審査員からは来場者の投票があればもう少し差がついたのではないかと感想を述べていました。そうした中で最優秀賞は、今回舞台発表でも優秀賞と健闘した富里福葉苑が獲得しました。優秀賞は第2ひかり学園「After コロナ〜今やりたいこと〜」、豊四季光風園「僕・私の好きなもの」、こいけ障害者支援センター「さあ目覚めよう。新しい自分へ。」、でい・さくさべ「小さな幸せと重なるの奇跡」の4作品でした。

ゲストには Balloon art Little Flavor の吉井小也香さんをお招きしました。これまでにはないゲストの方なので、観覧者に受け入れてもらえるか、始まるまでとても不安でした。ところが始まってみれば、華奢な体から次々と生み出される見事な作品、優しい語り口、舞台上で障害を持つ方々とふれあい大いに盛り上がる姿に30分という時間はあっという間に過ぎていきました。

今回は青葉の森芸術文化ホールに舞台を移して、12月5日(火)実施予定です。

事務局便り

事務局長 千日 清

年度末、暖かな日差しも目前。

晴れ晴れとした新年度を迎えられることを期待します。どうぞ皆様、お身体にご自愛されますよう。

編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

新年度に向けての引継ぎの時期。大変な仕事なのに楽しく笑顔で働くその姿。まずはそのやりがいを引き継がせていただきます。